

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第14週（3月30日～4月5日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ減少続く」

第14週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,443例であり、前週比10.8%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘・流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.78、1.62、0.53、0.29、0.23である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比10%減の875例で、北河内8.52、中河内7.11、南河内5.53、大阪市南部5.12、三島4.76であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は15%減の297例で、北河内3.00、中河内2.47、泉州2.40である。

RSウイルス感染症は29%減の97例で、大阪市北部1.38、北河内1.14、堺市0.76であった。

咽頭結膜熱は10%減の53例で、中河内0.95、大阪市南部0.47、南河内0.40である。

水痘は13%増の43例で、大阪市北部0.46、豊能0.41、北河内・南河内0.33であった。

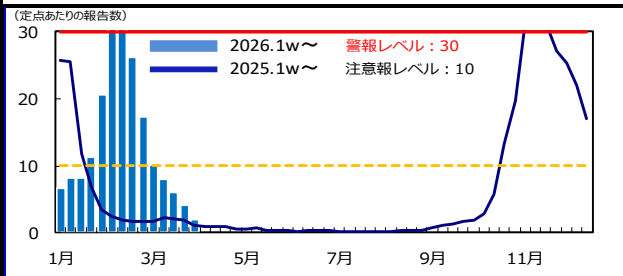
流行性角結膜炎は増減なしの12例で、大阪市南部1.00、泉州0.50、大阪市東部0.33である。

インフルエンザは52%減の573例で、定点あたり報告数は2.00であった。南河内3.30、北河内2.89、中河内2.31、大阪市西部2.00、大阪市南部1.96である。

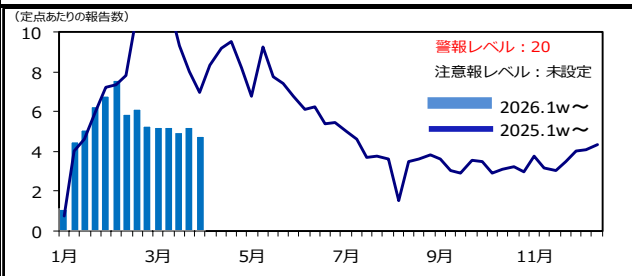
新型コロナウイルス感染症は24%減の108例で、定点あたり報告数は0.38であった。三島0.59、大阪市東部・大阪市南部0.50、豊能0.44、北河内0.40である。

急性呼吸器感染症（ARI）は15%減の8,084例で、定点あたり報告数は28.17であった。南河内39.57、大阪市北部35.85、北河内34.00、中河内32.90、堺市29.24である。

インフルエンザ



感染性胃腸炎



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第14週3月30日～4月5日）

第14週の順位	第13週の順位	感染症	2026年 第14週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第14週の 定点あたり 報告数	2026年第14週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	4.78	10%減	6.98	1歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.62	15%減	0.88	5歳_14%
3	3	RSウイルス感染症	0.53	29%減	0.83	1歳未満_40%
4	4	咽頭結膜熱	0.29	10%減	0.19	3歳_23%
5	6	水痘	0.23	13%増	0.28	10-14歳_21%
5	5	流行性角結膜炎	0.23	増減なし	0.08	20歳以上_75%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	2.00	52%減	1.09	20歳以上_28%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.38	24%減	1.31	10-19歳_18%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	28.17	15%減	-	1-4歳_38%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

[各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。](#)

第14週のコメント

～侵襲性髄膜炎菌感染症～ 大阪府の2025年の年間報告数は10例であった

全数把握感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) による侵襲性の感染症である。潜伏期は通常2～10日で、髄膜炎例では頭痛、発熱、髄膜刺激症状、痙攣、意識障害を示し、敗血症例では発熱、悪寒、ショック、播種性血管内凝固症候群 (DIC) を呈する。髄膜炎ベルト (meningitis belt) とよばれるアフリカ中央部で発生が多く、日本では、学生寮等で集団発生の報告がある。治療には、第三世代セフェム系抗菌薬等が使用される。患者との接触者には、緊急に、リファンピシンの予防投与が行われる。日本では、2015年より、4価髄膜炎菌 (血清型A、C、Y、W-135) ワクチンの任意接種が開始されている。

大阪府内で侵襲性髄膜炎菌感染症患者が増加しています！
(大阪健康安全基盤研究所)

侵襲性髄膜炎菌感染症(厚生労働省)

年別累積報告数

大阪府は2026年第14週現在
全国は2026年第13週現在

年	大阪府累計	全国累計
2017	4	25
2018	4	45
2019	7	75
2020	2	45
2021	1	15
2022	1	25
2023	4	45
2024	11	75
2025	10	85
2026	4	45

表2. 大阪府全数報告数 (2026年 第14週3月30日～4月5日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村								府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1			1						14	
4類感染症	レジオネラ症 (肺炎型)	2								1	1	34
5類感染症	アメーバ赤痢	1									1	14
	ウイルス性肝炎	1				1						6
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3			1						2	30
	急性脳炎	1								1		7
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1									1	13
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1									1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1	1			1					76
	水痘 (入院例)	1		1								12
梅毒	11		1		1	3			1	5	291	
百日咳	4				4						108	
結核 (2026年2月分)	結核 新登録患者数：56名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 149名、内 肺・喀痰塗抹陽性 56名)											

(2026年4月7日 集計分)